

食と薬の 相互作用

No.2

前回に引き続き食品や嗜好品が薬の効果や副作用に影響をおよぼす例をご紹介します。

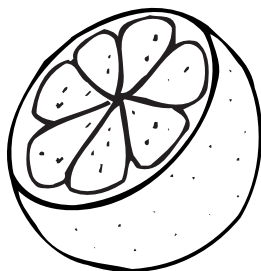
相互作用の起きる理由 その② 薬物代謝に及ぼす食、嗜好品の相互作用

多くの医薬品は体の中で薬物代謝酵素によって、代謝（薬の構造が変わっていくこと）を受け、活性化されたり、体内から排泄されやすい物質に変わったりします。

医薬品の代謝に深く関わっている酵素にCYP450という酵素のグループがあります。

近年薬物代謝酵素CYP450の研究が進み、薬物代謝に及ぼす食、嗜好品の相互作用の新しい知見が報告されています。

●グレープフルーツジュース



グレープフルーツジュースが多くの重要な薬物の血中濃度を上昇させることが知られています。原因として、グレープフルーツ中の成分が小腸上皮細胞中の薬物代謝酵素CYP3A4を阻害すること（働きにくくする）、小腸上皮で薬物排出を担っているP糖蛋白質を阻害する可能性などがあげられています。降圧剤や、シクロスポリンなど影響を受ける薬が多いので治療上注意が必要です。

●セントジョーンズワート含有食品

抗うつ作用があり、民間薬として市販されているセントジョーンズワート含有食品が肝臓にあるの薬物代謝酵素CYP3A4、1A1を誘導し、これらの代謝酵素で代謝されるシクロスポリンなど重要な薬剤の効果を減弱させることがわかってきました。

セントジョーンズワートとは？
(和名:セイヨウオトギリソウ)

ヨーロッパ原産で、現在では世界中に自生する多年草です。夏に咲く明るい黄色い花が太陽の光を連想させるように、ヨーロッパでは古くから心の暗闇を照らす「サンシャインハーブ」として、うつ病や神経症に利用されてきました。「聖ヨハネの草」という名前の通り、古代では魔を追い払うハーブとしても利用されたそうです。

●喫煙



喫煙が肝臓の代謝酵素CYP1A1、1A2を誘導し、テオフィリンの血中濃度を低下させるのは有名です。喘息の方はいろいろな意味でぜひタバコをやめていただきたいものです。

●アルコール代謝に影響を及ぼす薬物



薬品によっては飲酒に注意が必要になります。メチルテトラゾール基を有するセフェム系抗生剤(セフォペラゾン、ラタモキシセフ)やフルコナゾール、メトロニダゾールなどはアルコールによる、ジスルフィラム様作用(紅潮、悪心、頻脈、頭痛など悪酔いの状態)を引き起こすことがあるので治療期間中、治療終了後数日間は飲酒を控えなければなりません。

また潰瘍治療剤ラニチジン、シメチジンによるアルコール吸収の促進が報告されており結果的には飲んだ量より沢山飲んだことになり、長い間には肝臓に影響することが考えられます。お酒をいつも飲まれる方は薬の選択に注意が必要ですので、先生にご相談ください。

病院や薬局から薬をもらったら、服用時の注意事項にも注意し、わからないことがあったら医師・薬剤師にお尋ねください。